



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
1/29 (月)	+ 600	+ 11,100	+ 11,700	国庫短期証券発行償還 (3M) 各種財政資金の支払い	CP等買入 ▲ 100 国債補完供給 + 33,500		
1/30 (火)	+ 1,000	+ 4,000	+ 5,000		気候変動対応オペ ▲ 28,300		日：完全失業率 (12月) 米：FOMC 1 日目 欧：ユーロ圏GDP (4Q)
1/31 (水)	+ 900	+ 800	+ 1,700			CP等買入 + 4,000	日：日銀金融政策決定会合における主な意見 (1月22日・23日分) 日：日銀金融政策決定会合議事録 (2013年7月-12月分) 米：FOMC 2 日目
2/1 (木)	トン	▲ 30,000	▲ 30,000	国債発行償還 (2年)			欧：ユーロ圏製造業PMI (1月) 欧：ユーロ圏CPI (1月) 欧：ユーロ圏失業率 (12月)
2/2 (金)	+ 1,000	▲ 104,000	▲ 103,000	国債発行 (10年) 法人税・消費税・保険揚げ			日：マネタリーベース (前年比) (1月) 米：雇用統計 (1月) 米：失業率 (1月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比+1兆4,700億円の537兆7,200億円から始まった。その後、国債買入等の要因により増加傾向となり、26日には539兆3,400億円 (速報) まで増加し、越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、前営業日比▲0.003%の▲0.014%から始まった。その後はビッドサイドの調達意欲の強まりから、同金利は上昇基調を辿り、3日積みである週末26日には▲0.010% (速報) まで上昇した。

ターム物は1W~1M物を中心に▲0.015%~0.005%のレンジで出合が見られた。

日銀は22・23日に開催した金融政策決定会合において、現行の金融政策の維持を決定した。来週の予定は、国内では、31日に日銀金融政策決定会合における主な意見 (1月22日・23日開催分)、日銀金融政策決定会合議事録 (2013年7月-12月分) の公表、海外では30日・31日にFOMCの開催などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.010
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GCは週初▲0.08%台から始まり、週央には▲0.07%台まで上昇した。翌25日は▲0.08%台が出合いの中心となり、国庫短期証券3Mの入札が行われた週末も水準は変わらず▲0.08%~▲0.075%で取引された。

SC取引は2年454~456回債、5年149~164回債、10年350~373回債、20年180~186回債、30年65~81回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.050

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆1,400億円で、週間償還額約9,700億円を上回った。発行市場は小売りや石油等で大型の発行が見られた他、鉄鋼や非鉄金属、化学等の幅広い業態で発行が見られた。発行残高は先週末時点の27兆8,674億円から1月25日時点で27兆6,949億円に減少した。発行レートは、0%近辺から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。26日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート0.003% (前回0.003%)、平均落札レート0.012% (同0.018%) と平均落札レートは前回比で低下した。

来週の償還額は、月末の大量償還 (約2兆500億円) を含め、約2兆4,300億円となっている。発行市場は、月末日の大量発行が見込まれるため活況を予想する。発行レートは、金融政策変更の警戒感等から、発行期間の長い銘柄等については上昇余地を探る展開が見込まれる。

<TDB>

26日の3M (1209回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1437% (前回債▲0.1723)、平均落札利回り▲0.1544% (前回債▲0.1872%) となった。来週の入札は、2日に3Mが予定されている。